

# 防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会  
会報 第137号(2018. 8. 1)  
事務局 川西地区自主防災会

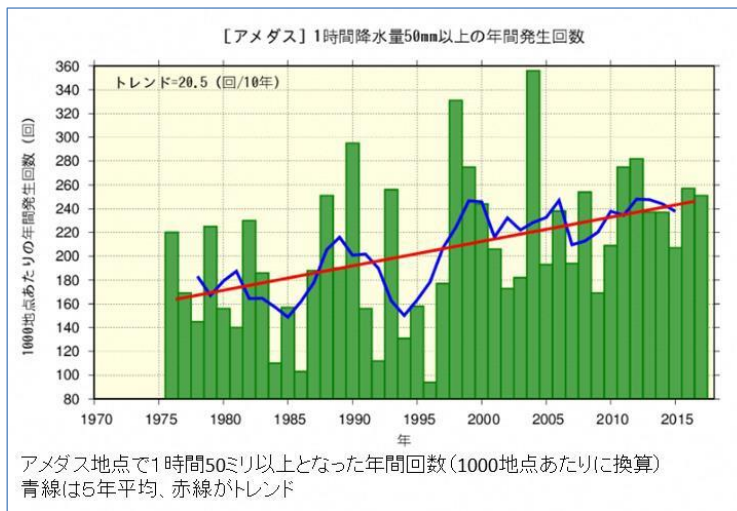
## 台風や集中豪雨から命を守るために 知ってほしい「大雨警報・洪水警報の危険度分布！」

高松地方気象台・防災官理官 川上 幸則

「平成30年7月豪雨」では、台風第7号や停滞する梅雨前線の影響により、日本付近に暖かく非常に湿った空気が供給され続けました。このため、西日本から東海地方を中心に広い範囲で記録的な大雨となり、西日本を中心に死者・行方不明者が二百名を超える未曾有の災害が発生しました。

気象庁では顕著な災害を起こした自然現象について名称を定めることとしていて、「平成30年7月豪雨」も気象庁が定めた名称です。昭和20年代以降に気象庁が名称を定めた気象現象の発生回数を見ると、昭和では数年に1回程度だったものが、ここ10年では8回もあり、ほぼ毎年のように顕著な災害が発生しています。

気象庁が全国約1300箇所の地域気象観測所（アメダス）において観測した、1時



間降水量50ミリ（滝のように降る雨）以上の年間発生回数の統計を見ると、発生回数は増加傾向を示しており、雨の降り方が昔と変わってきていることがわかります。

今後も日本のどこの地域においてもこれまでに経験したことのないような大雨が発生する可能性がありますので、そのことを常に頭に置いて行動することが大事です。

気象庁では、近年の雨の降り方が局地化・集中化・激甚化している状況を「新たなステージ」と捉えて、昨年度から「新たなステージに対応した防災気象情報の改善」を進めています。

今回は、避難のタイミングをつかむための情報として、平成29年7月4日から提供している、大雨警報・洪水警報の危険度分布をご紹介します。

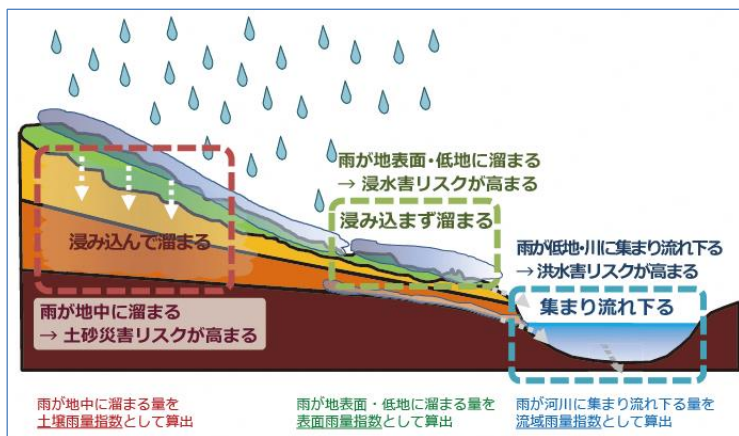
### ■大雨警報・洪水警報の危険度分布とは

気象庁では、災害発生との相関が高い「指数」と、地域の特性に応じた「基準」を

用いて災害発生の危険度を予測した分布図により、災害発生に対する警戒を呼びかけます。

・災害発生との相関が高い「指数」の求め方

大雨によって引き起こされる災害は、土砂災害、浸水害、洪水害があります。



気象庁では、降った雨が地中や地表面に溜まったり、河川を流れ下ることで、土砂災害や浸水害、洪水害のリスクが高まるメカニズムを模式化して、それぞれの災害発生との相関が高い「指数」（土壌雨量指数、表面雨量指数、流域雨量指数）を求めます。

・地域の特徴を反映した「基準」の定め方

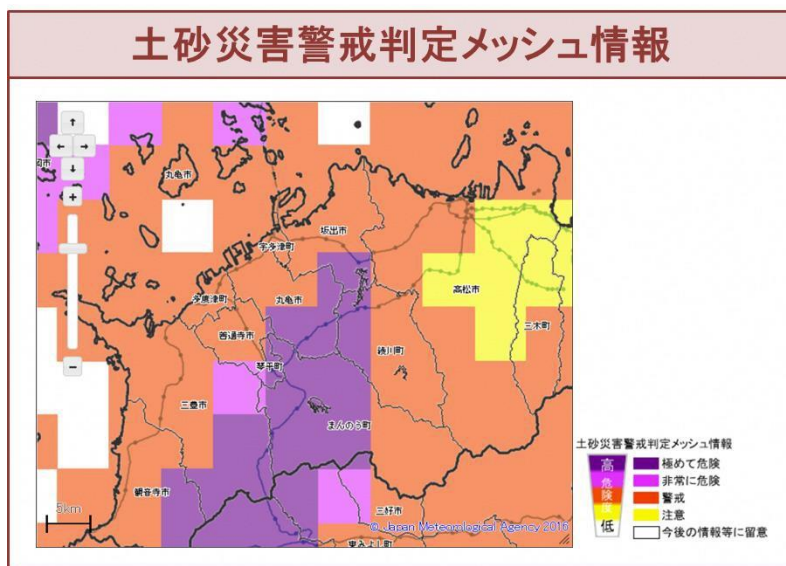
大雨による災害の発生のしやすさは、地盤の崩れやすさ、排水設備や堤防の整備状況などにより、地域ごとにさまざまです。気象庁では過去20年以上の災害発生時の指数値を調査して、災害と指数の関係から地域ごとに注意報・警報の基準及び警報より一段上の基準を定めています。このように、災害が発生しやすい地域では基準を低く設定するなど、地域の特徴を反映した基準により、災害発生の危険度を判断します。

■土砂災害、浸水害、洪水害の危険度の高まりを知らせる危険度分布

どこで「指数」の予測値が注意報・警報基準を超えるか判定した結果を地図上で色分けした危険度分布として表示し、土砂災害、浸水害、洪水害の危険度が高まっている状況をそれぞれ、土砂災害警戒判定メッシュ情報、大雨警報（浸水害）の危険度分布、洪水警報の危険度分布として、お知らせします。危険度は黄色→赤→薄い

紫→濃い紫の順に高くなります。危険度分布を見ると、自らの地域に迫る危険度の高まりを一目で把握することができます。

・土砂災害警戒判定メッシュ情報は、大雨警報（土砂災害）や土砂災害警戒情報を補足する情報です。避難にかかる時間を考慮して、危険度の判定には2時間先までの土壌雨量指数等の予



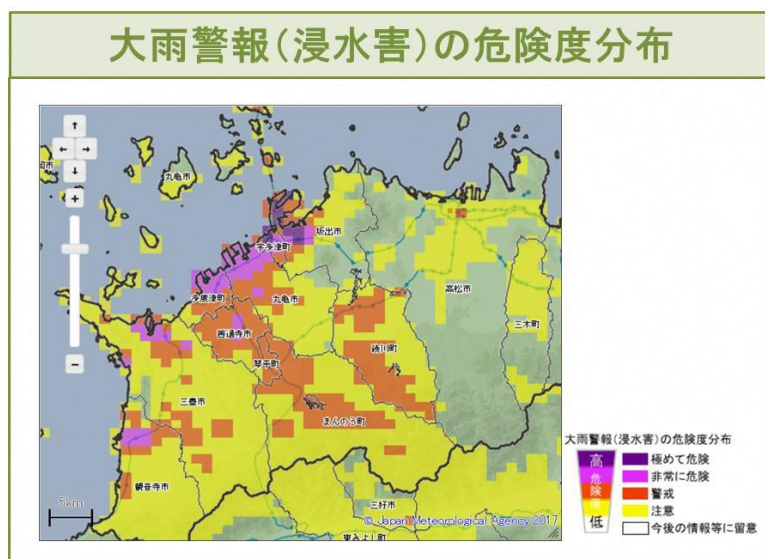
想を用いています。

土砂災害は、土砂災害警戒区域・土砂災害危険箇所等で発生します。あらかじめお住まいの環境について、市町のハザードマップなどで土砂災害警戒区域等であるかを確認していただき、お住まいが土砂災害警戒区域等であれば、警戒（赤色■）以上の危険度となった場合は、早めの避難が必要です。

危険度分布で表示される色の持つ意味は次のとおりです。

色が持つ意味	行動の例	目安とされている避難情報
極めて危険	既に土砂災害が発生しているもおおかしくない。この状況になる前に、土砂災害警戒区域等の外の少しでも安全な場所への避難を完了する。	避難指示(緊急)
非常に危険	速やかに土砂災害警戒区域等の外の少しでも安全な場所に避難。	避難勧告
警戒	避難の準備を整え早めの避難。 避難行動に支援を必要とする方は避難。	避難準備・高齢者等避難開始
注意	最新の情報を把握して、災害に備えた早めの準備。	-
今後の情報等に留意	今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に留意。	-

・大雨警報（浸水害）の危険度分布は、大雨警報（浸水害）を補足する情報です。危険度の判定には1時間先までの雨量予測に基づく表面雨量指数の予想を用いています。



浸水害は、周囲より低い場所やアンダーパス、地下室などで発生します。あらかじめお住まいの環境について、市町のハザードマップなどで浸水想定区域等であるかを確認してください。警戒（赤色■）以上の危険度で示された地域は浸水害の危険度が高いことを示しています。命が奪われるおそれのある場所にお住まいの方は屋内の

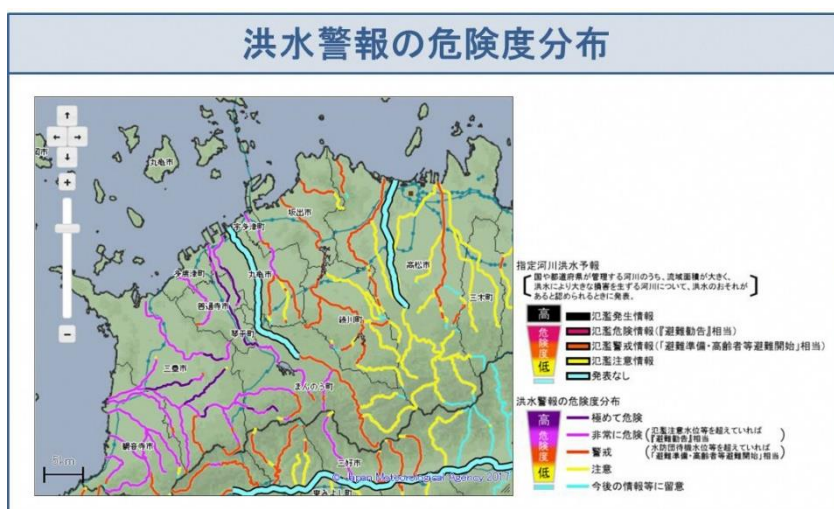
高いところや、場所によっては屋上へ移動するなど早めの安全確保行動を心がけてください。

危険度分布で表示される色の持つ意味は次のとおりです。

色が持つ意味	行動の例	想定される周囲の状況
極めて危険	この状況になる前に安全確保行動を完了する。	道路が一面水につき、側溝やマンホールの場所が分からない。道路冠水等のために鉄道やバスなどの交通機関の運行に影響が出るおそれがある。周囲より低い場所にある多くの家が、いつ床上まで水に浸かってもおおかしくない。
非常に危険	速やかに安全確保行動をとる。	
警戒	安全確保行動をとる準備をし、早めの行動を心がける。高齢者等は速やかに安全確保行動をとる。	多くの場所で側溝や下水があふれ、道路がいつ冠水してもおおかしくない。周囲より低い場所にある家が床上まで水に浸かるおそれがある。
注意	道路のアンダーパスに近づかない。住宅の地下室にいる方は速やかに安全確保行動をとる。	周囲より低い場所で側溝や下水があふれ、道路が冠水するおそれがある。住宅の地下室や道路のアンダーパスに水が流れ込むおそれがある。周囲より低い場所にある家が、床上まで水に浸かるおそれがある。
今後の情報等に留意	今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に留意。	普段と同じ状況。

・洪水警報の危険度分布は、洪水警報を補足する情報です。危険度の判定には3時間先までの雨量予想に基づく流域雨量指数の予想を用いています。

洪水害は、堤防から水が溢れたり堤防が決壊した場合に浸水が予想される区域や、



山間部の流れの速い河川沿いで発生します。あらかじめお住まいの環境を把握するとともに、市町のハザードマップなどで浸水想定区域等であることを確認してください。洪水警報が発表されたら、川の水位が上がる前の早いうちから洪水警報の危険度分布を見てください。

警戒（赤色■）以上の危険度で示された地域は洪水害の危険度が高いことを示しています。洪水で命が奪われるおそれのある場所にお住まいの方は、自分がいる場所のみでなく、それより上流の地点にも注意して、危険度が高まっている場合には、早めの避難を心がけてください。

危険度分布で表示される色の持つ意味は次のとおりです。

色が持つ意味	行動の例	想定される周囲の状況
極めて危険	この状況になる前に安全確保行動を完了する。	中小河川がいつ氾濫してもおかしくない。周囲より低い場所にある多くの家が、いつ床上まで水に浸かってもおかしくない。
非常に危険	速やかに立ち退き避難や安全確保行動をとる。	中小河川が増水し、今後氾濫するおそれがある。周囲より低い場所にある家が、床上まで水に浸かるおそれがある。
警戒	安全確保行動をとる準備をし、早めの行動を心がける。住宅の地下室からは速やかに避難する。	中小河川が増水している。
注意	今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に注意。	普段と同じ状況
今後の情報等に留意	今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に留意。	普段と同じ状況

### ■大雨警報・洪水警報の危険度分布の入手方法

危険度分布は気象庁ホームページで見ることかできます。パソコンやスマートフォン等を用いてご覧ください。



大雨警報・洪水警報の危険度分布 URL

<https://www.jma.go.jp/jp/doshamesh/index.html>

最後に、「平成30年7月豪雨」により、お亡くなりになられた方のご冥福と、避難生活を送られている方が一刻も早く普段の生活に戻れることをお祈り申し上げます。

# 事務局だより

平成30年 8月

今月は平成30年7月豪雨災害において甚大なる被害を受けた岡山県倉敷市真備町への復旧支援活動についてご報告します。

## 倉敷市真備町への復旧支援活動

日程は、7月14日（土）から3日間の行程です。もっと早く支援の予定でしたが、行方不明者捜索活動の日程により、14日（土）のスタートとなりました。

### <真備町災害復旧活動>

7月14日（土）午前7時30分全員丸亀市川西コミュニティセンター集合。

- ・土岐香川県危機管理総局長より、激励のごあいさつをいただき、午前7時45分出発。中国自動車道玉島ICよりボランティアセンター本部のある中国職業能力開発大学に立ち寄りボランティア活動の登録をすませ、復旧支援活動の場所指定を受けた後「真備支所」へ直行したが、道路渋滞がひどく8Kmの道のりに約45分かかり到着が午前10時となった。

その後、私達のお世話役となったピースボードから派遣された石原さん、復旧現場とのマッチング担当の土屋さんに引率され、復旧現場となる矢田地区（支所から約3分）の住宅街に入って、初仕事にあたった。

- ・土砂をかぶった畳、家具類の搬出、しかし足元はドロドロした土砂でとても不安定ですので、先ずこの土砂の搬出を先行させることで午前の作業終了。皆さんの服はすでにドロコでいっぱい。
- ・昨日の夜遅くまでかかって作っていただいたお弁当をボランティアセンターの日蔭で立ったままで食べた。
- ・午後1時作業現場へ、6カ所の家屋や庭に入って、土砂の搬出、持参した土のう袋に入れ、庭の片隅に盛り上げた。

午後2時ごろからの暑さときたら言葉に表せない程です、午後3時の休憩時給水所において全員、顔を洗って少し体を休める。

- ・午後3時30分現場である住宅街にもどり、最後の1時間だと疲れた体に言い聞かせ、土砂の搬出作業の継続。

- ・午後4時30分作業終了の旨を散らばっている現場へ伝達。皆さんホッとした表情。ただちに集合場所となっているマイクロバス（丸亀市社会福祉協議会所有を借用）のもとへ。
- ・午後5時一路香川県丸亀市へ。午後6時20分川西コミュニティセンター到着。この日（14日）に参加されたメンバーを紹介しよう。

福山 武（さぬき市） 岩崎 富夫（丸亀市） 高橋 義雄（丸亀市）  
 友國 和俊（東かがわ市）2日間 佐々木 一樹（丸亀市） 松岡 静男（丸亀市）  
 北山 定男（坂出市） 鎌田 稔（丸亀市） 曾根 勢津雄（丸亀市）  
 田尾 雄彦（三豊市）2日間 秋山 健一郎（丸亀市） 笹 克義（丸亀社協）  
 安藤 正則（観音寺市）2日間 溝田 和昭（丸亀市） 葛原 知子（丸亀社協）  
 山崎 利春（高松市） 香川 利秀（丸亀市） 高嶋 規千子（丸亀社協）  
 西澤 一弘（高松市） 菅原 文隆（丸亀市） 綾田 静子（丸亀社協）  
 以上21名と責任者として岩崎正朔（かがわ自主ぼう会長）が参加しました。

尚7月15日（日）7月16日（月）の活動報告は、次号で報告しますが、かがわ自主ぼう参加者を紹介します。

吉原 和夫、岡 重範、藤田 秀明、坂野 康夫、亀井 里志、今井 正



出発式 香川県危機管理総局長ご挨拶



被災住宅 駐車場の土砂のかき出し



被災住宅 庭のヘドロ除去



泥水に浸かった家具類の片付け作業



泥水に浸かった畳の搬出作業



3日間お世話になったマイクロバス  
(丸亀社協所有)

## 編集後記

今月の防災減災の輪は、高松地方气象台・防災官理官 川上様の原稿を掲載させていただきました。ありがとうございました。